

## 普及活動情勢報告

情勢報告（平成27年10月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

### J A 四万十新施設園芸システム研究会総会



9月30日、J A 四万十新施設園芸システム研究会の総会が担い手育成センターで開催され、生産者20人が参加しました。今井会長が挨拶で、「研究会発足後1年が経ち、これから環境制御機器も本格稼働、研究会で技術確立を」と語られました。その後、担い手育成センターでの取り組み紹介、土佐あき新施設園芸システム研究会代表の尾原由章氏による講演がありました。参加した生産者からは、「環境測定装置で収集したデータを持ち寄って検討したい」との声も上がり、普及所としても支援を続けていきます。

### ミョウガ部会総会



10月21日、J A 四万十ミョウガ部会総会が開催されました。ミョウガ部会員のうち36名が出席しました。

普及所は、実証ほの調査結果から炭酸ガスを施用した場合は草勢が維持されること等を報告しました。

生産者の中には炭酸ガスの施用に興味を持った方もいました。

今後も炭酸ガス施用も含めた環境制御技術の確立に努めていきます。

### 米ナス現地検討会



9月29日、J A 高知はた十和支所米ナス部会の現地検討会に4名の生産者が出席し、栽培の課題等について意見交換をしました。

普及所からは、今年度問題となった褐紋病と褐色腐敗病の防除対策、及び天敵温存植物による土着天敵を活用した害虫防除について情報を提供しました。

今作、土着天敵のタバコカスミカメによるアザミウマ類の防除効果が不安定であったことから、次年度にはI P M実証ほを設置し、技術改善を図ることになりました。

### タマネギ栽培講習会



10月21日、タマネギの栽培講習会を開催し生産者12名が参加しました。11月上旬の定植に向けて、ほ場の土壌診断を行い、それに基づいて生産者ごとに元肥の施肥量を指導しました。また、高収量・高品質を目指し、生産者との協議のうえ栽植様式を決定しました。さらに、現在9品種を育苗しているほ場に場所を移し、品種特性についても説明しました。

今後も普及所では、関係機関と協力してタマネギ栽培及び産地化の支援を行います。

### お米マイスターとの現地検討会・意見交換会



9月30日に生産者ほ場及びJAでお米マイスターとの現地検討会、意見交換会を開催し、関係機関、生産者16名が参加しました。

現地検討会では普及所が本年度の生育状況や収穫時期等の判定方法について情報提供するとともに、お米マイスターからはほ場の管理上の留意点等について説明がありました。

意見交換会ではお米マイスターから全国の新品種や本年度の米穀情勢について説明を受けました。

今後も普及所では、関係機関と連携し、四万十町産‘にこまる’の全国ブランド化に向けて支援していきます。